

海洋科学技術に関する研究会 ご報告

2018 年 12 月 13 日

1. 研究会の目的

海洋科学技術は、我が国の経済・社会の発展、地球規模課題への対応等に貢献するものであり、研究開発で得られた知見・技術・成果の社会還元が重要である。

一方で、急速な産業・金融の IT 化・グローバル化、地球規模での環境問題の深刻化や少子高齢化の進展に伴う人材不足の顕在化、海洋権益に対する国際的な関心の高まりなど、海洋科学技術を取り巻く環境は大きく変化しており、様々な変化が海洋科学技術のあり方に大きな影響を与えている。

また、我が国海洋政策においては、平成 30 年 5 月に内閣総理大臣のもとで、第 3 期海洋基本計画が策定されたところであり、今後の 10 年を見据えた海洋政策として、海洋の安全保障の強化をはじめ、科学的知見の充実等を重点項目として、関係省庁が関連施策を強力に推進することとしている。

以上のことから、本研究会では、海洋科学技術の重要性に鑑み、海洋科学技術を取り巻く環境や地政学的観点を踏まえつつ、今後約 20 年間で世界に大きな影響を与える可能性のある海洋科学技術を見据え、その技術展開や人材育成の推進等に関する課題を共有し、海洋技術開発大国として我が国が世界を引き続きリードしていくため、早急に着手すべきものについて、第 3 期海洋基本計画をベースにその内容を精査し、今後の海洋科学技術の方向性を検討する。具体的には、我が国の EEZ の利用に必要となる基盤的技術（特に海洋インフォマティクス、海洋ロボティクス）のほか、今後、我が国が注力すべき技術開発課題について共通認識を醸成していくことを念頭に進めることとする。

2. 参加者の実績

- 大和参与（主査）、杉本参与、高島参与、前田参与、水本参与
- 有識者（海上・港湾・航空技術研究所、海洋研究開発機構、水産研究・教育機構、東京大学、FullDepth、川崎重工業）
- 関係府省

3. スケジュール

- 第1回研究会（10月29日） ～我が国の社会と技術の現状、海洋ロボティクスとICT～
 - ・本研究会の趣旨等説明
 - ・海洋鉱物資源広域探査システム開発について
 - ・海洋の無人化・ICT化に係る取組の現状と課題について

- 第2回研究会（11月30日） ～海洋ロボティクスとICT～
 - ・海洋新産業の創出、海洋の環境創生に資する教育研究体制等について
 - ・海洋の無人化・ICT化に係る取組の現状と課題について

- 第3回研究会（12月26日） ～海洋情報～
 - ・海洋科学技術に係るデータ基盤の現状と課題について

- 第4回研究会（1月16日） ～我が国の社会と技術の現状、民間等の取組～
 - ・我が国を取り巻く政治経済の状況と海洋科学技術について
 - ・民間等の取組の現状と課題について

- 第5回目研究会（2月8日） ～研究会のまとめ～
 - ・国民の海洋科学技術についての関心の深め方
 - ・特に我が国が取り組むべき技術開発課題について
 - ・施設見学（海上・港湾・航空技術研究所）